

日本小児血液・がん学会 第10回理事会議事録

日 時：平成25年9月13日（金） 12：30～16：00

場 所：AP 浜松町 H ルーム

出席者：石井榮一（理事長）

越永従道（副理事長）、足立壮一、今泉益栄、小原 明、工藤寿子、黒岩 実、
嶋 緑倫、滝 智彦、中澤温子、真部 淳、米田光宏（以上理事）

伊藤悦朗（監事）

田口智章（第55回学術集会会長）

小田 慈（第56回学術集会会長）

杉田完爾（第57回学術集会会長）

水谷修紀（オブザーバー）

欠席者：池田 均、菊地 陽、野崎美和子、細井 創（以上理事）

福澤正洋（監事）

原 純一（オブザーバー）

I 議事録署名人の選出

嶋緑倫理事、滝智彦理事が選任された。

II 前回理事会議事録（案）の確認

以下のように修正の上、承認された。

- ・保険診療委員会報告「ブスルフェクス公知申請について日本造血細胞移植学会と共同提出を行った」→「共同提出を行う予定である」
- ・臨床研究審査委員会報告→誤字修正
- ・疾患登録委員会報告→小原先生、藤本先生、水谷先生ならびに滝先生が事情をうかがいに行った。

III 審議事項

1 名誉会員推戴について

浅見恵子先生、加藤俊一先生、鶴澤正仁先生、林富先生、細谷亮太先生、水谷修紀先生の6名が推薦され、承認された。

2 市民公開講座「日本のがんを考える」（仮）後援名義依頼について

後援名義使用について特に問題ないことが確認され、承認された。

3 トラベルアワードについて

田口学術集会会長より4名の推薦があり、承認された。

4 その他

1) SIOP 総会日本誘致について

石井理事長より、国際小児がん学会アジア大陸会長の中川原章先生より SIOP 総会日本誘致にあたって協力依頼があったことが報告され、本学会としてもできる限りの協力を行っていくことが確認された。

主な協力事項としては、日本国内の SIOP 会員を増やすこと、SIOP の学会に積極的に参加を行うこと、本会学術集會中に SIOP セッションを開催すること等につき検討していくこととなった。

IV 報告事項

1 庶務報告

越永副理事長より、会員動向ならびに新入会者について報告がなされ、新入会者について承認された。

2 常設委員会報告

1) 学術・教育委員会

足立副委員長より以下の通り報告があり、承認された。

(1) 学術賞

- ・掘り起こし作業についての是非が議論されたが、本年度は掘り起こしを行うこととした。なお、応募論文が増えてきたこともあり、今後の掘り起こし作業の要否については、次期委員会にて検討するよう申し送ることとした。
- ・応募論文を優先すべきとの意見を採用し、応募論文については、評価点の合計を評価した審査委員の人数で割り、その点数に5点プラスした。
- ・上記方法によると、掘り起こし論文1編、応募論文1編の場合、掘り起こし論文が応募論文を点数で上回ることがないという問題が生ずることが後日確認され、今後改善策を検討することとなった。
- ・年齢要件を規定していなかったため今後検討していくこととなった。
- ・今後、多施設共同論文および短報の取り扱いについて検討していくこととなった。

以上により、学術賞は、血液臨床→多賀 崇（滋賀医科大学）、血液基礎→永井功造（愛媛大学）、がん臨床→大島 淳二郎（北海道大学病院）、がん基礎→川島弘之（日本大学）の各先生に授賞することとなった。

(2) 大谷賞

- ・大谷賞は従来学術教育委員会の担当ではなかったが、本年から担当することとなった。
- ・旧日本小児血液学会では、学会誌の原著論文の中から評議員に投票依頼を行い、最終的に理事会で投票を行って授賞候補論文を決定していた。昨年からは学会統合に伴い、日本小児血液・がん学会雑誌となっているので、この中から小児血液分野の原著論文を抽出し、現在、旧日本小児血液学会の評議員による投票を行っている。

2) 保険診療委員会

黒岩委員長より以下の通り報告があり、承認された。

- ・公知申請にて承認された薬剤3剤ならびにRSウイルスに対するパリビスマブ適応拡大について、社会・広報委員会委員長の了承を経てホームページに掲載した。
- ・8月19日に診療報酬改定に関して厚労省のヒアリングがあり、櫻井英幸、正木

英一、前田美穂、加藤俊一、黒岩実（敬称略）が陽子線治療の新保険収載ならびに小児悪性腫瘍患者指導料算定の見直しについて説明を行った。

・今後の活動として、小児鎮静に関する調査のアンケートを行い、また、小児入院医療管理料に係る加算の施設基準についての調査を行う。

なお、石井理事長より EBV 関連疾患の EB の定量について造血細胞移植学会とともに理事長名にて提出を行ったことが報告された。

3) 専門医制度委員会

米田副委員長より以下の通り報告があり、承認された。

・専門医試験に向けて、現在各種準備を進めている。
・暫定指導医資格保持者、血液専門医資格保持者の受験要件について確認を行った。血液専門医保持者の筆記試験受験については、現在問題の範囲を委員会内で検討中である。

・研修施設認定の直近 3 年間の診療実績については、疾患登録データセンターとしては正確な数字を渡すことが出来ないため、「前々年度の 12 月 31 日までの 3 年間」と規定することとした。

・専門医制評価・認定機構による整備指針と規則・施行細則のすり合わせについては、本学会は日本小児科学会の subspecialty 学会であるため、今後、同学会と協力しながら整備を進める。

・研修施設について、現在の小児がん認定外科医の状況を鑑みて、後二年で全ての研修施設に小児がん認定外科医が所属していることは困難との予測から、今後暫定措置も含めて対応を検討していくこととなった。

・がん治療認定医保有者にも試験における特別要件を適用してほしいとの意見もあったが、がん治療認定医については現状の規則に記載がない為、今後検討していくこととなった。

・研修施設の診療実績について、再発、転院などはどう対応したら良いのかという質問などが寄せられているが、こうした質問には規定されていないため即答できないケースも多く、その都度委員会内で確認を行い、回答を行う方針としている。

なお、施設認定に関連して、認定施設からは年次報告書の提出を求めているかどうかの意見が述べられ、今後検討していくこととなった。

4) 利益相反委員会（滝委員長）

滝委員長より以下の通り報告があり、承認された。

・現在、学術集会発表者に対してのみ利益相反の確認を行っている。
・利益相反情報の管理・利用・公表については、学会事務局にて厳重に管理・保管を行い、理事・関係役職者が利益相反状態の有無・判断を行う。
・役員利益相反に関しては、次期理事会メンバーから確認を行う。
・「利益相反の取扱に関する細則」に関しては総会にて最終確認を行う。
・副理事長と利益相反委員会委員長・倫理委員会委員長を細則における「理事・

関係役職者」とすることが確認された。

- ・確認の対象者にガイドライン執筆者を入れてほしいとの意見があり、今後確認を行うこととなった。

5) 臨床研究審査委員会

足立委員長より下記の通り報告があり、承認された。

- ・5 研究が一次審査を終了した。1 研究の二次審査が間もなく終了となる。
- ・一部の委員の審査が遅延気味なので、次期委員会に委員構成見直しについて申し送りを行う。

6) 学会誌編集委員会

嶋委員長より下記の通り報告があり、承認された。

- ・50 巻 3 号を 9 月に発刊予定である。
- ・読者より、学会誌には Letter to the Editors がないが、学会誌の quality 向上のため必要でないかとの意見が委員長に寄せられ、投稿原稿の種別「編集者への手紙」（仮題）を新設することとなった。

なお、編集の流れとしては、当該投稿論文の担当編集委員に再度審査を依頼した上で著者へも質問文書を転送して回答を依頼し、著者からの回答が届き次第、読者からの質問文書とともに学会誌に掲載をするという手順で考えている。

7) 診療ガイドライン委員会

米田委員長より以下の報告があり、承認された。

- ・菊地副委員長の代理として委員の神奈川県立こども病院の後藤裕明先生にお願いする。
- ・今後、厚生労働省科学研究において、本学会ガイドラインがどのように使用されているか調査を行う予定である。

3 理事長諮問委員会

1) 緩和ケア等事業委員会（越永委員長・米田委員）

越永委員長および米田委員より以下の報告があり、承認された。

- ・先日行った持ち回り審議にて、委員構成が決定した。
- ・放射線領域としては、野崎先生が退任となった。その後小児放射線学会に推薦を依頼しているが、現時点で回答未受領である。
- ・『小児脳腫瘍』に関する診断・治療」研修会を開催することとなり、大阪市立総合医療センターの坂本博昭先生が準備委員会委員長となった。日程は、2 月 2 日（大阪）、2 月 23 日（東京）の 2 回開催の予定である。
- ・過去に学術集会で行われた教育セッションと同内容の研修を、今後ローテーションで学術集会と別に行いたい。

続いて、CLIC（「小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」（厚生労働省委託事業））について以下の報告があり、了承された。

- ・8 月に研修会が大阪市立総合医療センターで開催された。内容は小児医療全般に対する緩和ケア研修会である。
- ・応募資格は 5 年以上の小児科診療経験のある医師となっているが、この応募

資格が適切かどうかについては、今後改めて検討することとなった。

・年度内に計 3 回研修会があるが、そのうち一回が血液関係の学会と重なっていた。本学会が研修会を主催している以上、今後このようなことがないように留意する。

4 学術集会準備報告

1) 第 55 回日本小児血液・がん学会（田口会長）

田口会長より、プログラム案に沿って以下のように説明があり了承された。

- ・前日の会議については、理事会が 14 時から、評議員会が 16 時から開催され、続けて 18 時から JCCG 設立準備委員会が行われる。
- ・懇親会で学術賞ならびに大谷賞の授与式を行う。
- ・11 月 29 日 19 時から拡大プログラム委員会として会長招宴を行う。
- ・最終日に記者会見を行う準備を進めている。
- ・学術集会中委員会については現時点で全委員会が提出しているわけではないため、未着の委員会には事務局から改めて確認を行うこととなった。
- ・専門医制度委員会より例年通り専門医制度についての説明を行いたいとの要望が出され、評議員会で説明いただくこととなった。
- ・学術集会最優秀演題については、プレナリーセッション開始前に座長である学術教育委員会委員長ならびに副委員長が表彰をすることが確認された。

2) 第 56 回日本小児血液・がん学会（小田次期会長）

小田次期会長より、資料に沿って進捗状況について報告がなされた。

また、今後患者会との付き合い方について検討をしたほうが良いのではないかと意見が述べられ、検討していくこととなった。

3) 第 57 回日本小児血液・がん学会（杉田次々期会長）

杉田次々期会長より、現在、日本小児がん看護学会の会長の選出依頼をしている旨報告があった。

5 その他

1) 学術集会中委員会開催について

現時点で開催希望日程が未提出の委員会は、事務局に連絡するよう石井理事長から要請があった。

2) サノフィ(株)より要望書について

クロファラビンに関する要望書について依頼があり、要望書を厚労省に提出をしたことが石井理事長より報告された。

3) 理事長・理事・監事・委員会について

現在の立候補人数について石井理事長より報告があった。

次回理事会は 11 月 8 日（金）14：00-18：00（夕食あり）に開催することとなった。

以上